大腸内視鏡検査における新しい腸管洗浄剤である低容量硫酸塩製剤の有用性

のざき消化器IBDクリニック
内視鏡技師　○松平美貴子、西坂好昭
医　　師　　野﨑　良一

【はじめに】

大腸内視鏡検査（以下TCS）における腸管洗浄剤は、PEG製剤が主流である。当院においても、2021年９月開業以降PEGを使用してきた。しかし、今年２月からは新しい腸管洗浄剤の低容量硫酸塩製剤（以下サルプレップ®）を導入している。

今回、腸管洗浄効果および受容性について調査しサルプレップ®の有用性について報告する。

【方法】

2023年２～３月に当院においてTCSを施行した症例に対し調査を行った。前日検査食を摂取し、ラキソベロン®15滴を３日前から服用した。当日の腸管洗浄剤の服用方法は、サルプレップ®１杯と水１杯を服用し５分後に水１杯。これを１セットとし、10分間隔に４セット繰り返した。完了の判断は看護師が行った。

調査項目は、患者背景として、年齢、性別、基礎疾患･手術歴の有無、普段の排便状態、最終排便状態。洗浄効果は各部位を施行医が判定し、総合評価を行った。受容性についても調査した。

【倫理的配慮】

発表にあたり調査対象者のプライバシー保護に配慮し、本人および家族から口頭または文書で同意を得た。

【結果】

男性44例、女性56例、平均年齢52.7歳。TCS初心者32例、リピーター 68例だった。服用量は、95例が１本480mLで完了し、360mLが４例、720mLが１例だった。服用開始から完了までの所要時間は平均80.22分（45～140分）だった。飲みやすかった88例、やや飲みづらかった12例。飲めなかった症例は１例もなく、全症例が次回もサルプレップ®を飲みたいと答えた。副作用の出現はなかった。

医師が評価した洗浄効果は、優良85例、良15例、観察困難例は１例もなかった。年齢・性別・基礎疾患などの患者背景と服用量・所要時間・受容性において有意差は得られなかった。憩室の有無と洗浄効果においてのみ有意差が認められた（P＜0,01）。

【考察】

サルプレップ®は服用量が少なく、短時間で前処置が完了し、PEG同等の腸管洗浄効果が得られ、受容性が高いことがわかった。また、ボトルタイプのため溶解する必要がなく、直接コップに注いで服用できるため利便性も高い。今回の調査結果以降も引き続き導入しており、良好な前処置効果が得られている。

【結論】

今回の調査結果から、サルプレップ®は優れた洗浄効果と高い受容性が得られたため、PEG製剤に代わる腸管洗浄剤として有用であると思われる。